

# 宮っこだより

宇都宮市  
教育委員会  
広報紙

### 主な内容

- ・宇都宮市の学校所蔵品展……………1
- ・学校、家庭、地域、企業が連携  
“地域はみんなの学校”を目指します……………2
- ・元気な宮っこを育む力強いサポーター……………3
- ・宇都宮の星みつけた!  
大人も子どもも輝く宮っこ……………4-5
- ・特別支援学級の子どもたちに寄りそって……………6
- ・TOPICS……………7

学校・家庭・地域・企業の協力の輪が、宇都宮市の教育を支えています。



宇都宮でがんばる人たちや宇都宮の教育を支えてくれている人たちに光をあてて、人づくりの輪をつなげるための情報紙



①中央小学校での作品調査 ②豊郷中学校での作品調査  
③ギャラリートークはお客様さまと作品をつなぐ大切な仕事  
④会場には山の絵を描く創作コーナーも

**社会人学芸員と創った展覧会**

宇都宮美術館では、平成20年度と23年度に、市内の小中学校が持つ美術工芸等作品の調査を行いました。その結果、約600点の作品が所蔵されていることが判明しました。

この調査成果をもとに、平成24年6月6日から10日までの5日間、宇都宮市文化会館展示室で「宇都宮市の学校所蔵品展」こんな見つけちゃいました」を開催しました。展覧会には選ばれた47点の作品が並び、会期中、760人のお客様をお迎えすることができました。

展覧会半年前からその準備にあたったのが、20代から70代までの17人の「社会人学芸員」のみなさんです。600点の作品から透けて見える、宇都宮の特徴って何だろう？子どもたちは作品から何を感じているのかな？私たちが次代に伝えていくべきことは何？色々なが話合われました。

**Re+ School Collections**  
リ+スクール コレクションズ

**宇都宮市の学校所蔵品展**  
「守る・伝える・地域の宝物」

**作者の視点を探して山に登った学芸員**

展覧会の企画を考える中で、学校所蔵作品には山を描いたものが多いということに気づきました。そこで、社会人学芸員の一人、山登りを趣味にしている潮田晶子さんは、宇都宮市北部の鞍掛山を描いた作品をじっくり研究することになりました。この作品がどの方向から描かれたものなのか、現地の近くを歩き回り、そして実際に山の頂上まで登ってみたいそうです。展覧会では現在の山の様子を撮影した写真を見せながらギャラリートークを行い、大勢の来場者が潮田さんの探索の成果に聞き入っていました。そしてなんと最終日には、作品が展示されていることを口コミで知った作者ご本人から連絡があり、後日インタビューをさせていただけることになりました。こうして展覧会の後も、調査研究は進んでいきます。

**時を超え家族の作品との再会**

展示室では様々な出会いがありました。空襲を避けて白沢地区に疎開していた日本画家、荒川晃雲の作品（白沢小学校所蔵）を展示したところ、数十年の時を超えて、作品は作者の娘さんたちとの再会を果たしました。家族のみなさんは「思いもかけずに父の画と対面でき、まだ白沢小学校の一角に飾られていると思いますと何か涙が滲んで参ります。父の優しさがそのまま描かれた画です」と大変喜んでおられました。ほかにも、教わった先生の名前を見つけて懐かしむ方、学校にすばらしい作品が所蔵されていることへの驚きを口にされる方が大勢いらっしゃいました。



くしていくためのお役に立てるようになれば、かつて学校は、子どもたちに見せたものを負っていました。地域で使われていた道具や祭礼品を展示している学校は多いと思います。同じように、学校の中に常設のギャラリートークができるものではないでしょうか。子どもたちと先生と地域の人々が集まって、校内に1年間どんな絵を飾っていくか考える「学校学芸員プロジェクト」が、いつの日か始まることを夢見ています。今回誕生した社会人学芸員は、そのための良きアドバイザーとなることでしょう。

**宇都宮美術館 ☎643・0100**

今年度より、宇都宮市教育委員会教育長に就任いたしました。微力ながら、本市の教育行政の充実発展に努力して参りますので、皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて、今年の4月から、小中一貫教育と地域学校園の全市実施が始まりました。「地域はみんなの学校」を合言葉に、地域全体での人づくりを進めています。

現代社会では個人主義の傾向が強まり、人と人との関わりが希薄になっているといわれています。そのようななか、学校とそこで学ぶ子どもたちを中心として、地域のつながりを取り戻すことが可能であると考えています。子どもたちだけでなく、私たち大人も、生涯を通じた新しい発見や気づきを感じ、学び続けたいものです。学校や地域を舞台に、様々な世代の人達が関わり合い教え合うことで、学校での学習だけでは得られない、真の「学び」を実感できるのではないのでしょうか。

上記で紹介している社会人学芸員のみなさんは、学校に眠っていた資源に光を当てるとともに、自身が学び得た作品に関する知識を地域に還元し、芸術の喜びを多くの方に伝えてくださいました。この催しは、学校に新たな発見と感動をもたらしただけでなく、社会人学芸員の方々にとても有益であったのではないかと思います。人と人とが伝え合うこと、それが学びの原点ではないでしょうか。

**教育委員会「リラム」**

宇都宮市教育委員会  
教育長  
水越 久夫





平成24年度より「小中一貫教育と地域学校園」スタート  
**学校、家庭、地域、企業が連携**  
**『地域はみんなの学校』**  
 を目指します

「小中一貫教育」は  
 どんなことを目指しているの？

わかる授業と楽しい学校生活を目指す  
**「小中一貫教育」**

小中一貫教育では、全ての児童生徒の学校生活適応と学力保障を目指しています。義務教育9年間を見通した小中一貫教育カリキュラムに基づいた授業や、小中学校教員による相互乗り入れ授業、小学校6年生の進学先中学校訪問などの取組を通して、小中学校の教職員が連携を深めたり、小学生の中学校進学への不安が軽減されたりと、少しずつ成果が出ています。

「地域学校園」って何だろう？  
 どんなことを行うのかな？

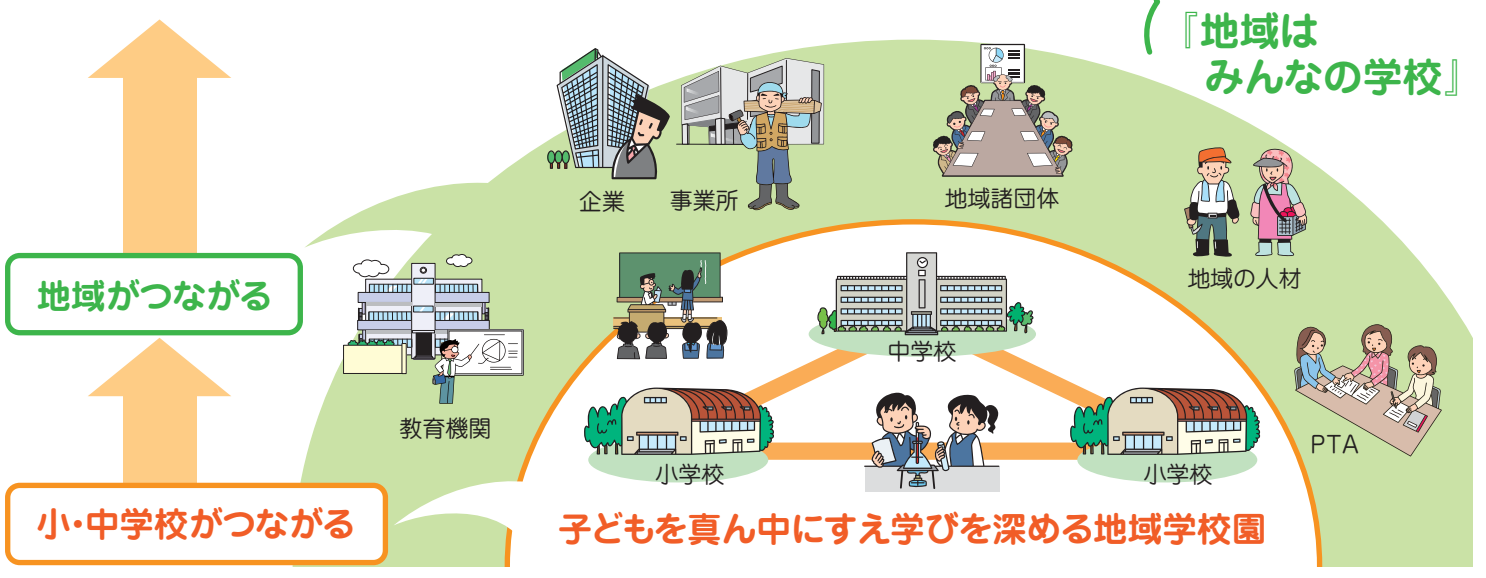
「地域はみんなの学校」を目指す  
**「地域学校園」**

地域学校園は、中学校を核として、子どもが学び、大人が子どもを教えることを通して学びを深め、『地域はみんなの学校』となることを目指しています。  
 モデル地域学校園(※1)では、各小中学校の魅力ある学校づくり地域協議会(※2)が連携して、地域総ぐるみでの清掃活動や、小中学校・地域の行事が一目でわかる「地域学校園カレンダー」作成の取組を進めてきました。

モデル以外においても、本年度中に、小中学校の魅力ある学校づくり地域協議会の連絡会を開催し、『地域はみんなの学校』の取組に向けた準備が進められます。

(※1)平成22年度より2年間、モデルとして先行実施した桑陽東、清原、豊郷、姿川、河内の6つの地域学校園  
 (※2)学校やPTA、自治会、企業などの地域の団体が構成され、子どもを育むために学校・家庭・地域・企業が一体となって「学校教育の充実」と「家庭、地域の教育力向上」に積極的に取り組む組織

学校・地域がつながりを深め、子どもを育みながら、大人も学びを深める



**企業の皆様へ**  
 企業の皆様には、これまで、中学校2年生の「宮子チャレンジ」(社会体験学習)等でご協力いただいていることに感謝いたします。  
 本市では、新たに『地域はみんなの学校』の取組を進めておりますので、学校や魅力ある学校づくり地域協議会から取組への参加依頼等があった場合は、是非、ご協力をお願いいたします。  
**教育企画課 0632-2695**



地域学校園でのあいさつ運動に、ブレックスの選手やスタッフが参加し、児童生徒、保護者、地域の方々と一緒に大きな声であいさつしました。



豊郷地域学校園【7月4日(水)】



陽東地域学校園【7月13日(金)】



清原地域学校園【7月13日(金)】

**地域学校園の取組に企業が参画した事例を紹介し**  
 プロバスケットボールチーム「ブレックス」の運営会社である株式会社リンクススポーツエンターテインメントでは、社会貢献活動「BREX SMILE ACTION」の環として、今年度より地域学校園の活動に参画いただいています。  
 今年度は、選手やスタッフのみなさんに地域学校園のあいさつ運動へ参画いただきました。

#34 伊藤 俊亮 選手  
 いとうしゅんすけ

スポーツでもあいさつがコミュニケーションの基本です。バスケット活動だけではなく、コミュニケーションを深める活動に参加できて、嬉しかったです。今後も、このような取組に積極的に参加していきたいです。

スタッフ 下出 恒平 さん  
 しもいでこうへい

はじめて地域学校園のあいさつ運動に参加しました。子どもたちが明るく元気にあいさつをすることで、コミュニケーションが深まることを感じました。

豊郷中央小 6年  
 いいのかずき 飯野 和樹 さん

豊郷中央小学校では、生活向上委員会で毎日「あいさつ運動」に取り組んでいますが、ブレックスの選手が来てくれた日は、豊郷中学校の生徒や保護者の方も一緒にあいさつをしました。ブレックスの選手はハイタッチをしてくれるなどして、みんなの声がいつもより大きく、盛り上がった気がします。ほくも、将来プロ野球選手になることが夢ですが、大きくなったらこのような活動に進んで取り組みたいです。



■ロゴマークについて  
 このプロジェクトから「元気・笑顔が派生する」という意味で中心から広がりを持つようなイメージにし、「ブレックスのホームカラーの「紺」をベースに「栃木県の「緑」「笑顔の「黄」「行動・実行の意思を示す「赤」」を表しています。





# 体力向上サポーター派遣事業 元気な宮っこを育む 心強いサポーター



市教育委員会では、子どもたちの体力低下に歯止めをかけ、生涯を通じて健康に生活できる心と体を育成することを目標として『つつのみや元気つ子プロジェクト』を策定し、「体力の増強」「健康の管理」「食育の推進」を柱に、様々な事業を展開しています。

その事業の一つである「体力向上サポーター派遣事業」では、子どもたちが運動の楽しさを体験しながら、体力の向上や基礎となる技能の定着を図るため、県内のプロスポーツチームや企業等と連携し、体育の授業等に外部講師を派遣しています。



【リンク栃木プレックス】  
「キッズモチベーションプロジェクト」



【栃木サッカークラブ】  
「ゆめプロジェクト」

## 憧れのプロスポーツ選手とのふれあい

プロスポーツチームとの連携では、県内の四つのプロスポーツチーム（栃木サッカークラブ・リンク栃木プレックス・宇都宮ブリッツェン・HC栃木日光アイスバックス）の協力を得て、体育の授業等にプロスポーツ選手やコーチ、スタッフを派遣しています。

子どもたちはプロスポーツの内容に応じた準備体操や簡単な補助運動、ミニゲームなどを行い、選手と触れあひながら、運動の楽しさを実感し、運動スキルを学んでいます。

また、夢に向かって頑張ることのすばらしさや最後まであきらめずに取り組むことの大切さを選手が子どもたちに伝え、子どもたちが将来の目標をもって何事にも取り組めるよう支援しています。

## アメリカ発「ボックスプログラム」で

### 脳の活性化！

朝学校の授業が始まる前に運動を行うことで、子どもの学習能力が高まる。アメリカでこのような運動効果が実証されました。その研究をもとに考案されたのが「ボックスプログラム」という運動で、誰でも楽しく体を動かせる簡単な動きで構成されています。

## ボックス boks プログラム とは？

＊ただ運動をするのではなく、運動を「朝」に行うことが重要です。  
＊様々な運動を組み合わせ、複雑な動きをすることで、子どもたちが自分で動きを考えます。普通の運動よりも、**脳を活性化**させてくれます。

朝の運動でこんな効果があります。

- 「からだ」…運動不足の解消、強い筋肉と柔軟な体の形成、運動能力の向上
- 「こころ」…ストレス解消、集中力の向上
- 「あたま」…脳の活性化、学力の向上
- 「協調性」…異年齢との交流による協調性の育成

## 瑞穂野南小学校で朝の

### 「ボックスタイム」スタート

瑞穂野南小学校では、一般財団法人ユナイテッド・スポーツ・ファウンデーションの協力を得て、主に火曜日の休み時間を「ボックスタイム」として、ボックスプログラムを、年間を通して全学年で取り組んでいます。

瑞穂野南小学校では、インストラクターの指導のもと、学年ごと、下学年・上学年ごとの活動や全校生での活動など、さまざまなバリエーションで活動を行っており、その結果、運動を楽しみ感じ、進んで運動に取り組む子どもたちが増えてきました。



子どもたちみんな、本当に楽しそう！

「ボックスタイム」はインストラクターの指導で行われます。色々な動きを織り交ぜて、少し頭を使うような運動も、ゲーム感覚で楽しむことができます。

## ボックスプログラムを生んだ

### レイティ博士が学校に！

6月22日の「ボックスタイム」には、ボックスプログラムを推奨しているアメリカ・ハーバード大学のレイティ博士と、佐藤栄一市長が来校し、博士自らが子どもたちに指導を行う場面も見られました。

大きなかけ声をかけながら熱心に指導する博士の下、子どもたちはいつも以上に張り切って活動していました。11月8日に開催される栃木県小学校教育研究会体育部会では、体育の授業公開とともに「ボックスタイム」のロングバージョンを公開する予定です。

BOMB!



一般財団法人 ユナイテッド・スポーツ・ファウンデーションのご協力で実施されている「ボックスタイム」。レイティ博士は子どもたちに声をかけながら、楽しく指導をしてくださいました。

